

# 事業計画および成長可能性に関する事項

(2026年12月期～2028年12月期)

2026年2月13日 東証 グロース：4579

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。



1 会社概要 → p.5

4 事業計画 → p.41

2 ビジネスモデル → p.11

5 事業リスク → p.48

3 事業戦略 → p.14

6 次回開示の予定時期 → p.52

+ 補足資料 → p.54

## 連結経営成績

### 今後3年間の安定成長と黒字継続

- 2025年12月期の黒字化に続き、2026年12月期～2028年12月期の3期連続の営業黒字を見込む
- 2028年12月期には営業利益9.1億円へ増益。EBITDAも増加

## 上市品

### テゴプラザンのグローバル成長に基づくロイヤルティ収入の拡大

- テゴプラザンは日本を含む世界57カ国で事業化進行中。現在19カ国で販売。さらなるグローバル化を見込む
- ペット用医薬品のロイヤルティ収入も順調に推移すると見込む

## 開発 パイプライン

### 豊富な導出済み開発パイプライン

- 前臨床段階以降で13個の導出済みプログラム（潜在収益は800億円以上）
- 本事業計画期間内の開発進捗とそれに伴うマイルストーン収益を見込む

### HK inno.N社との戦略的提携による加速

- 合計24億円の調達資金で強化した財務基盤を活用し、高い付加価値を持つ新たなパイプライン創出を目指す

### 創薬研究基盤の強化

- 実績ある低分子創薬を柱に新規モダリティへの投資を強化

## 成長戦略

### 研究開発ポートフォリオの強化

- 本事業計画期間は新たな開発パイプラインの創出に注力。2028年12月までに3つの開発候補創出を目指す
- 前臨床段階にある注目プログラム：グレリン受容体作動薬およびIRAK-M分解誘導薬

### ビジネスモデルの強化

- 「研究段階から収益を獲得」するハイブリッド型ビジネスモデル

## 株主価値

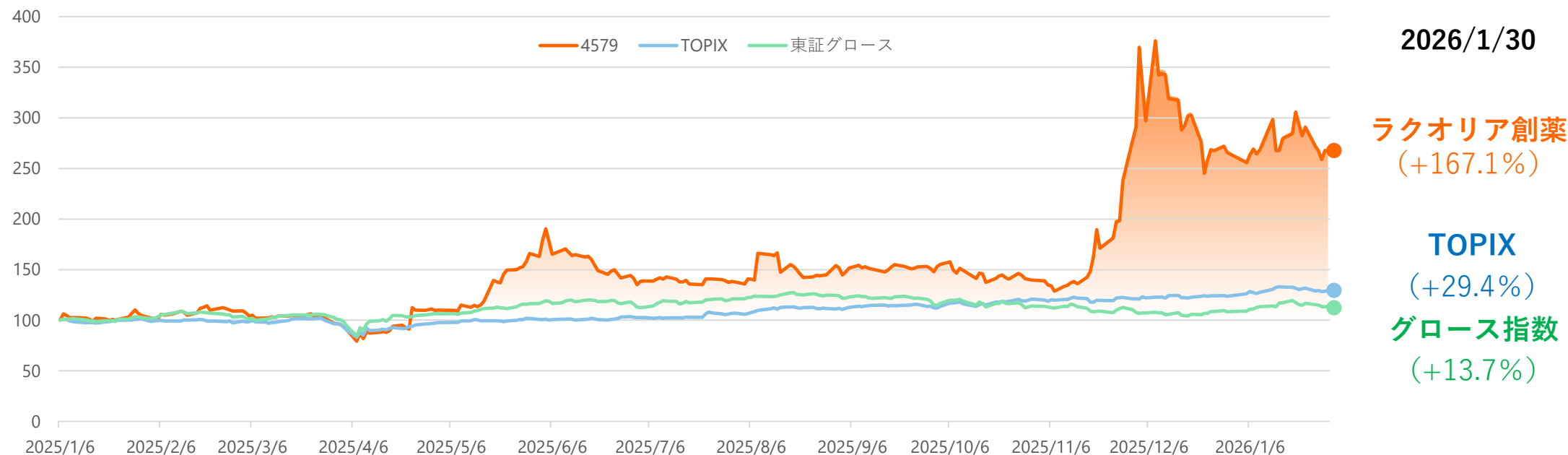
### 成長性 x 収益性の両輪で株主価値向上

- 上市品からのロイヤルティ収入によるROE向上 x パイプラインの成長・創出によるPER向上

**堅調な株価推移**：2025/1/6～2026/1/30における相対株価はTOPIX対比+約138ポイントと強い推移  
2025年後半、特に11月以降において市場指数をアウトパフォーム

## ラクオリア創薬 相対株価

(2025/1/6の値を100として指数化 (対象期間：2025/1/6ー2026/1/30) )



2026/1/30

ラクオリア創薬  
(+167.1%)

TOPIX  
(+29.4%)

ダウ工業株30種平均  
(+13.7%)

# 1

## 会社概要

企業理念・事業内容

innovators for life



# innovators for life

わたしたちは「0から1」を生み出す“innovator”としてこれからも人々の未来を創造し続けたいと考えています。患者さんや、患者さんを取り巻くすべての人々のいのち・人生・生活である“life”をよりよいものにしたいという強い想いを込めて「Mission・Vision・Value」を刻み、イノベーターとして挑み続けます。



## Mission

イノベーションの力で、いのちに陽をもたらす

## Vision

難病に苦しむ人々を救う革新的創薬のトップランナー

## Value

### 患者第一

患者さんを第一に考えて行動し、一日も早く新薬を届ける。

### 信頼

真摯に行動し、チームで貢献する。  
社会から必要とされる存在になる。

### 探究

サイエンスを究める。

### 挑戦

失敗を恐れない。  
道のりを楽しみ、イノベーションを生み出す。

(2026年1月1日現在)



## ラクオリア創薬株式会社

代表取締役 須藤 正樹

### 事業内容

医薬品の研究開発

医薬品、臨床開発候補品及びこれらに関わる基盤技術の知的財産の販売及び使用許諾

企業及び大学との生物医学分野における知的財産の開発及び販売を目的とした提携

設立 2008年2月19日

資本金 32億4,089万円

### 所在地

本社：名古屋市中村区名駅南一丁目  
研究：名古屋市千種区 名古屋大学内  
神奈川県藤沢市 湘南ヘルスイノベーションパーク内  
東京オフィス：東京都新宿区北新宿1丁目



会社名 ファイメクス株式会社

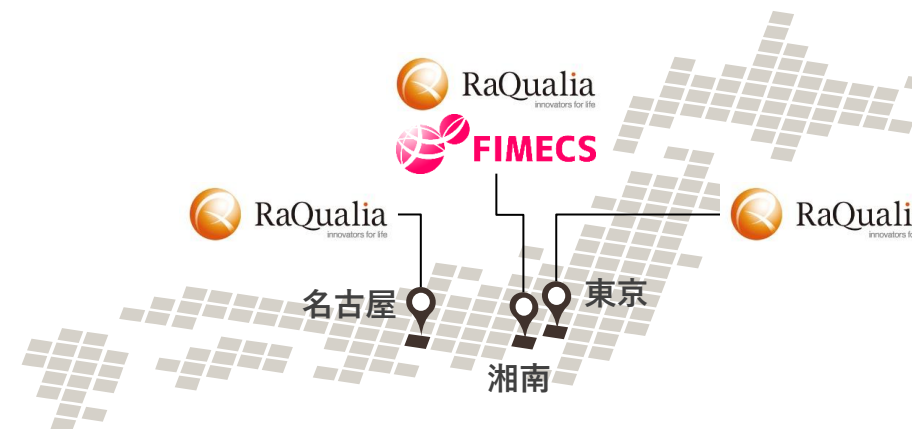
代表 宇都 克裕（代表取締役 CEO）

事業内容 タンパク質分解誘導を機序とする新規医薬品の研究開発

設立 2018年1月18日

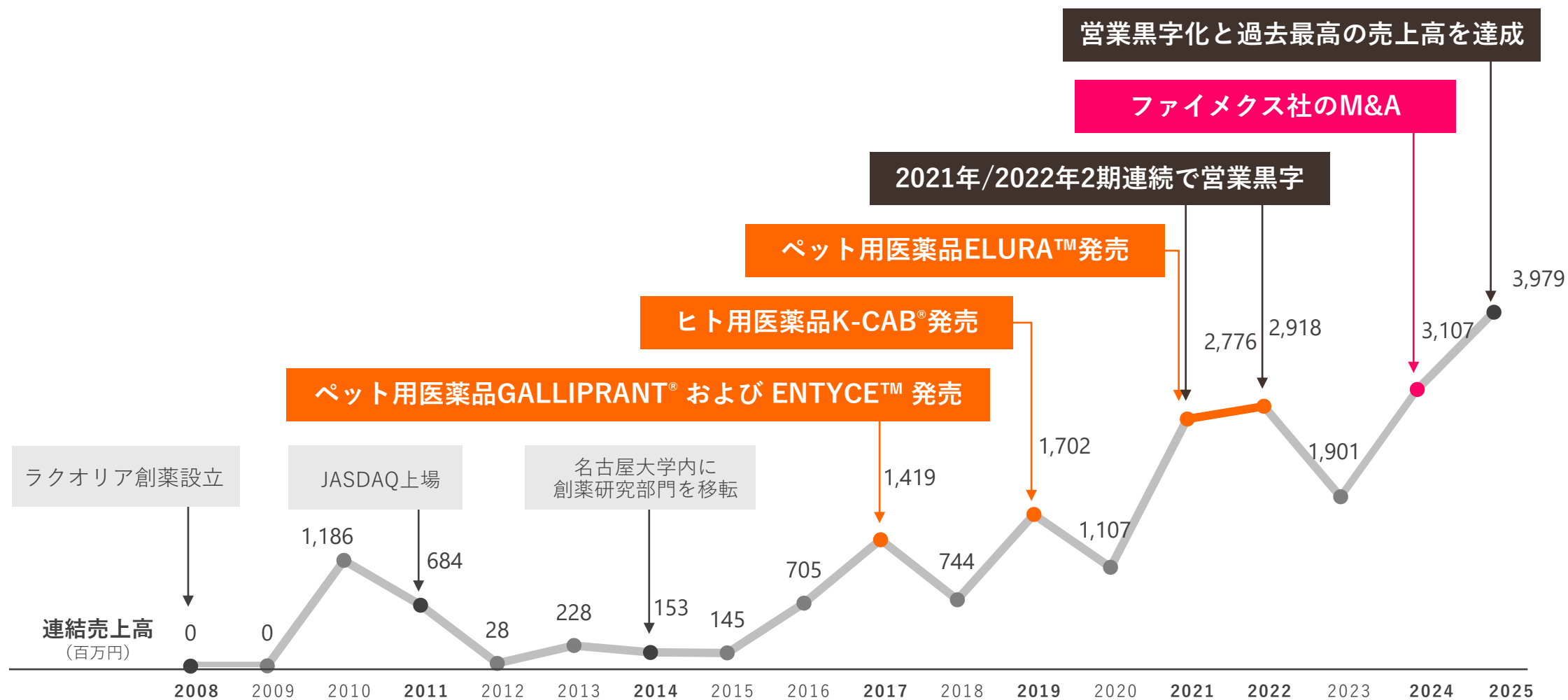
沿革 2024年3月 完全子会社化

注：2026年1月1日、当社の完全子会社であったテムリック株式会社の吸収合併を行ったため、当社子会社はファイメクス株式会社のみとなっております。





2008年2月にラクオリア創薬株式会社を設立、当社創出の化合物から **4つの医薬品** が上市済





RaQualia  
innovators for life

# 数字でみるラクオリア

事業計画および  
成長可能性に関する事項

1 会社概要

## 自社オリジンの医薬品

上市品  
 **4** 製品

テゴプラザン  
 世界**57**カ国 (※)  
での事業活動が進行中

## 創業以来の累計連結業績

2008年-2025年

売上高

**227** 億円

ロイヤルティ収入

**105** 億円

その他収入

**122** 億円

## 5 カ年累計連結業績

2021年-2025年

売上高 (累計)

**146** 億円

当期純利益 (累計)

**938** 百万円

## 5 カ年累計研究開発費

2021年-2025年

研究開発費

**71** 億円



年平均増加率  
**12%**

## 従業員 (連結)



**85** 名

## 手元資金



**38** 億円

## 導出済の開発プログラム



**13** 個

前臨床段階以降

## 既存契約の潜在収益



**800** 億円以上

※：日本を含む

# 2 ビジネスモデル

事業内容・収益構造

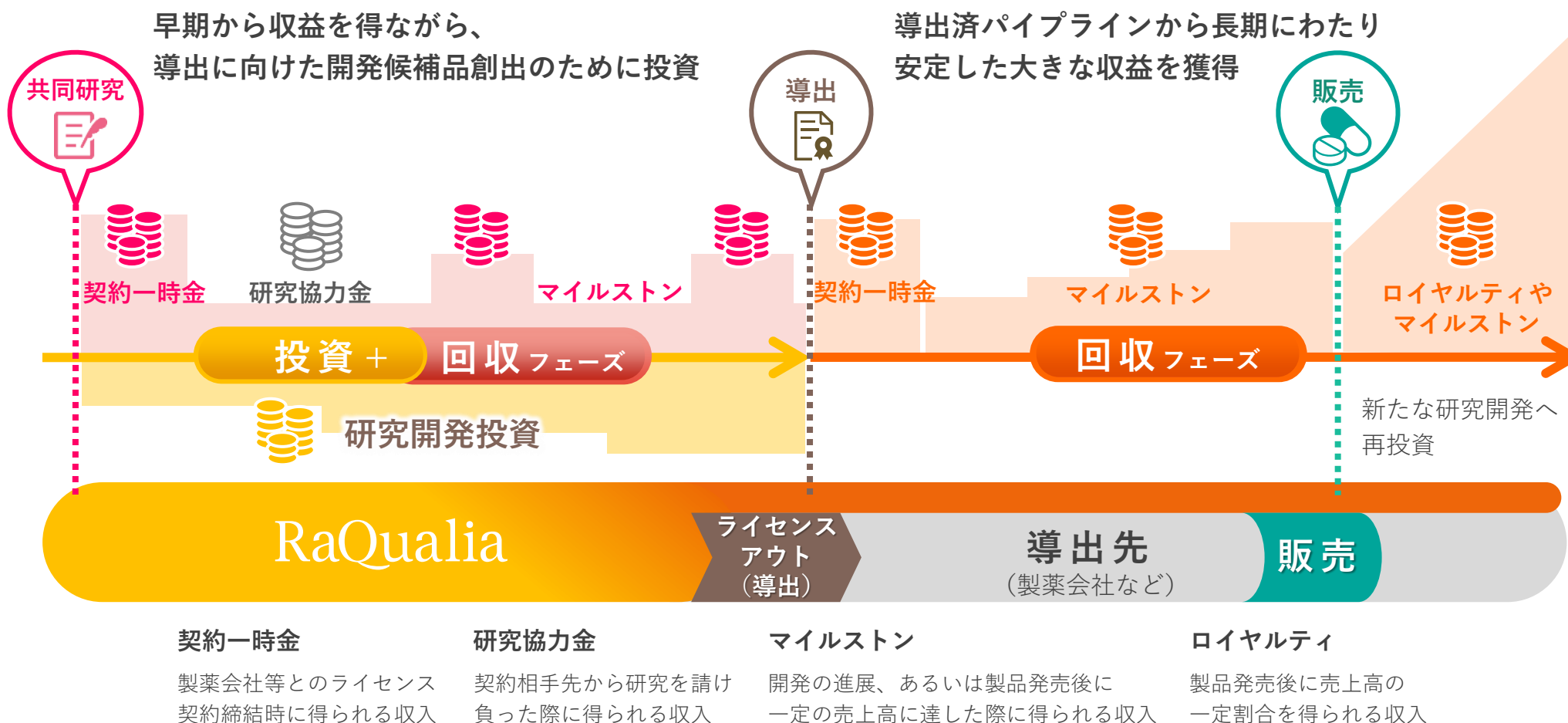
innovators for life

新薬開発の道のりは長く、当社は**探索研究から前期臨床試験まで**を事業領域とする

## ラクオリア創薬の事業領域



当社は、医薬品の候補物質に関する研究開発成果の導出による収益だけでなく、共同研究の契約一時金、研究協力金、マイルストーン等を得る **ハイブリッド型のビジネスモデル** でリスク・リターンのバランスを調整



# 3

## 事業戦略

上市製品・開発パイプライン・成長戦略

innovators for life

## 開発パイプライン

### 上市製品

提携先での販売の伸びにより  
ロイヤルティはさらに拡大

### 成長戦略

競争力の  
源泉

種別	一般名・作用機序	適応症	主な製品名・販売元
 ヒト用	<b>テゴプラザン</b> カリウムイオン競合型 アシッドブロッカー (P-CAB)	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃食道逆流症</li> <li>胃潰瘍</li> <li>十二指腸潰瘍</li> </ul> ほか	<b>K-CAB® (韓国)</b> HK inno.N Corporation (「HK inno.N社」) <small>タイシンザン</small> <b>泰欣贊® (中国)</b> Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co., Ltd. ほか
  ペット用	<b>グラピプラント</b> EP4拮抗薬  <b>カプロモレリン</b> グレリン受容体 作動薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>犬の慢性骨関節炎</li> <li>犬の食欲不振</li> <li>猫の体重減少管理<sup>1)</sup></li> </ul>	<b>GALLIPRANT® (日米欧ほか)</b> Elanco Animal Health Inc. (「Elanco社」)  <b>ENTYCE™ (米国)</b> Elanco社  <b>ELURA™ (米国)</b> <b>Eluracat™ (欧州)、エルーラ™ (日本)</b> Elanco社

1) 適応症は国・地域によって異なり、米国では「慢性腎疾患またはその他の慢性疾患を伴う猫の体重減少管理」となっています。



カリウムイオン競合型アシッドブロッカー（P-CAB）

（2026年2月1日現在）

胃酸分泌抑制剤テゴプラザン



一般名 tegoprazan（テゴプラザン）

適応症 胃食道逆流症、消化性潰瘍、ピロリ菌除菌療法ほか

販売元 HK inno.N Corporation（韓国／HK inno.N社）  
Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co., Ltd.（中国／Luoxin社）ほか

製品名 K-CAB®（韓国ほか）、泰欣赞®（中国）、Ki-CAB®（メキシコほか）、PCAB®（インド）



胃酸に関わる疾患は数多い

胃食道逆流症（GERD）、胃潰瘍、ヘリコバクター・ピロリ感染症など



既存薬（プロトンポンプ阻害剤（PPI））の課題を克服

- ✓ 服用30分以内の速やかな効果
- ✓ 最長6カ月の長期服用でも有効性・安全性が持続
- ✓ 強力な胃酸分泌抑制能
- ✓ 低い薬物相互作用



世界の消化性潰瘍剤の市場は2兆円<sup>1)</sup>

中国 4,500億円<sup>1)</sup>、米国 4,000億円<sup>1)</sup>、日本 2,500億円



日本を除く地域の権利をHK inno.N社に許諾

当社は開発の進捗に応じたマイルストーン/製品売上に応じたロイヤルティを受け取る



韓国・中国など19カ国<sup>2)</sup>で販売中

このほか37カ国に進出

1) 出所：HK inno.N社IR資料（2025年11月）、換算レート：1韓国ウォン=0.11円

2) 韓国、中国、モンゴル、フィリピン、インドネシア、シンガポール、メキシコ、ペルー、チリ、コロンビア、ドミニカ共和国、ニカラグア、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドル、パナマ、マレーシア、インド、およびタイ

# 韓国におけるK-CAB® の売上は引き続き好調に推移

## K-CAB® 2025年の国内売上高 2,179億ウォン（約240億円）※1

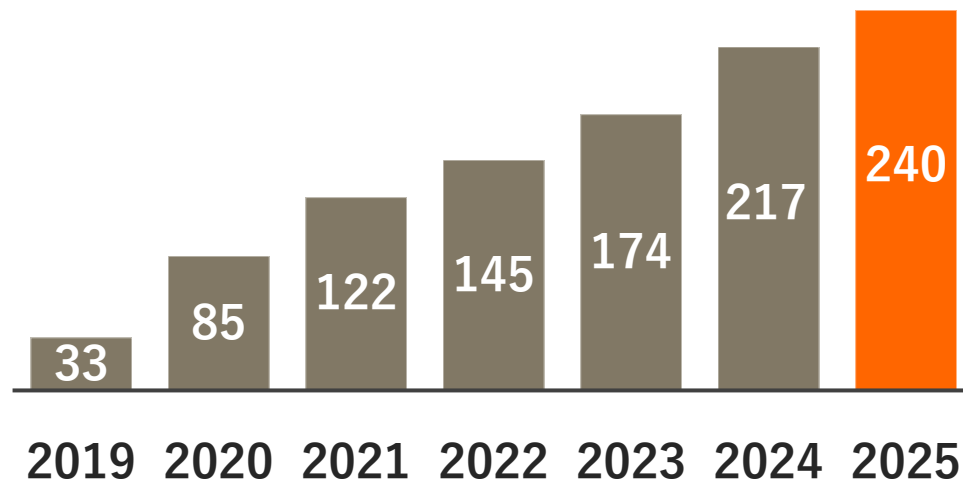
右肩上がりの好調な売上推移を継続。発売7年目であるにもかかわらず二桁成長を維持

特許係争の完全勝利で2031年までの独占販売を確保。適応症追加の可能性も含めさらなる売上増加を見込む

### 韓国市場における「K-CAB®」のパフォーマンス

#### 売上高の年次推移

（単位：億円）



前年比

+10.6%

市場シェア※2

第1位

（シェア15%）

特許係争の完全勝利（2025年11月※3）により  
**2031年までの独占販売を確保**

※1：院外処方実績（暫定値）

※2：韓国における胃酸分泌抑制剤市場におけるシェア

※3：「大法院における全件勝訴判決のお知らせ」（2025年11月21日当社お知らせ）

換算レート：1 韓国ウォン=0.11円

**世界57カ国**（日本を含む）での事業活動が進行中。販売国も**19カ国**まで増加

販売国：

																		
韓国	中国	モンゴル	フィリピン	インドネシア	シンガポール	メキシコ	ペルー	チリ	コロンビア	ドミニカ	ニカラグア	ホンジュラス	グアテマラ	エルサルバドル	パナマ	マレーシア	インド	タイ

## 中国での販売・開発が進展

市場浸透により売上高増  
注射剤の臨床試験進行中

## サブライセンス地域の拡大

北アフリカ・中東6カ国  
オーストラリア  
ニュージーランド

## 日本におけるライセンス導出

HK inno.N社にライセンス

## 北米での開発が進展

第III相臨床試験に成功  
承認申請済（2026年1月）

## 承認・販売国が増加

エクアドルで承認  
インド、タイで販売開始

## その他の主要な国・地域における販売・開発状況

P3試験実施中・申請準備中

カナダ、ブラジル、南アフリカ・東欧等6カ国、  
中東・北アフリカ地域

承認審査中

ベトナム、中南米5カ国、米国

承認済・発売準備中

パラグアイ、エクアドル、ロシア

2025年は「グローバルブロックバスター」  
としての大きな一歩を踏み出した年

## 第III相臨床試験（TRIUMpH試験）の概要

- Sebel Pharmaceuticals社（Sebel社）の一部門であるBraintree Laboratories（Braintree社）が実施
- びらん性胃食道逆流症（EE）および非びらん性胃食道逆流症（NERD）を対象としたピボタル試験
- 対照薬：ランソプラゾール（プロトンポンプ阻害薬（PPI））・プラセボ

### TRIUMpH試験の有効性評価項目（出所：clinicaltrials.gov (<https://clinicaltrials.gov/>)）

	びらん性胃食道逆流症（EE）（n=1,250）	非びらん性胃食道逆流症（NERD）（n=800）
<b>主要 評価項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8週目までに完全治癒した患者の割合（非劣性）</li> <li>24週目まで完全治癒を維持した患者の割合（非劣性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>24 時間胸焼けのない日の割合（4週目）</li> </ul>
<b>副次 評価項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間胸やけのない日の割合（非劣性）</li> <li>8週目までに完全治癒したLAグレードCまたはDの患者の割合（優越性）</li> <li>2週目までに完全治癒したLAグレードCまたはDの患者の割合（優越性）</li> <li>8週目までに完全治癒した全ての患者の割合（優越性）</li> <li>2週目までに完全治癒した全ての患者の割合（優越性）</li> <li>24 時間胸焼けのない日の割合（24週目）（非劣性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸やけおよび胃酸逆流が完全に消失した患者の割合（4週目）</li> </ul>

EEとNERDの両方において、全ての主要評価項目および副次的評価項目を達成  
安全性および忍容性はプラセボ・ランソプラゾールと同程度（血清ガストリン値も正常範囲内）

→ **NEW** 2026年1月9日 米国食品医薬品局（FDA）に申請

テゴプラザンが**胃食道逆流症の画期的な治療選択肢**となる可能性が大規模臨床試験の結果で示された

## 市場環境

- 世界の消化性潰瘍剤の市場規模は2兆円以上（米国：4,000億円）
- 胃食道逆流症の第一選択薬はPPI
- 米国ではPPIで症状が完全に緩和されない患者さんが約4割 (Chey WD, Mody RR, Izat E. Dig Dis Sci. 2010)

## 胃食道逆流症で苦しむ患者さんのアンメットニーズに応える結果

### びらん性胃食道逆流症（EE）

#### びらん・胸やけの完全治癒

PPIを上回る

“P-CABがPPIを凌駕する可能性を示しており、テゴプラザンが他の薬剤よりも優れている可能性を示唆”

Felice Schnoll-Sussman, MD  
米・ワイルコーネル大医大教授

#### 寛解状態の維持

PPIと同等または上回る

“最も重症な分類においてさえも、テゴプラザンが持続的な臨床効果を持つことを示している”

Prakash Gyawali, MD  
米・ワシントン大医学部教授

### 非びらん性胃食道逆流症（NERD）

#### 胸やけ・胃酸逆流の完全消失

プラセボに比べて改善

“私たちは通常、胸やけの解消についてのみ議論する。これまでは、テゴプラザンのように胃酸逆流の減少を証明できたものがなかったため”

Prateek Sharma, MD  
米・カンザス大医学部教授

PPI/プラセボと同程度に安全

TRIUMpH試験

出所：2025年4月24日発表「胃酸分泌抑制剤tegoprazanの米国における第III相臨床試験（TRIUMpH試験）の良好なトップライン結果を発表」  
2025年8月8日発表「胃酸分泌抑制剤tegoprazan、米国における第III相臨床試験（TRIUMpH試験）で良好な結果を取得し試験を完了」

主要市場における浸透・進展が進み、**グローバル・ブロックバスターの地位**にさらに進展



中国

## 4,500億円市場の本格攻略が始まる

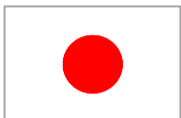
2025年12月 ピロリ菌除菌補助療法が国家保険償還対象薬リスト（NRDL）に収載。40-60%という高いピロリ菌の感染率を背景に年間売上が200億円を超えて大きく伸長すると当社は期待。中国市場で大きな役割を果たす注射剤製剤の開発は現在第II相臨床試験段階



米国

## PPIに対する優位性を確立した世界初のP-CABとして2027年中の製品発売

2026年1月のFDAに承認申請済で2027年初頭の承認取得を見込む。米国の市場規模は4,000億円。Sebela社が想定する最大売上ポテンシャルは1,500億円だが、本格的な売上伸長は本事業計画期間の後と想定。2030年に年間売上500億円に到達すると当社は期待



日本

## 後期臨床開発の進展

ライセンス先のHK inno.N社がこれまでに蓄積した情報とノウハウを活用して「起源地」である日本国内での実用化を推進。世界第3位の市場（2,500億円）での製品発売によって2030年代のロイヤルティ収入の柱となることを当社は期待



欧州

## サブライセンス先の獲得と後期臨床開発の進展

米国での進展を背景にHK inno.N社による欧州での開発・販売先の獲得が進むと期待される。欧州への進出は「2028年に世界100カ国」の鍵を握る。日本と同様に、2030年代のロイヤルティ収入の柱となることを当社は期待



既販売国での順調な売上げ推移に加え、新たな国・地域での承認・販売でさらなる価値向上



EP4拮抗薬

## GALLIPRANT®

- 日米欧ほかで販売中
- 2021年にブロックバスター製品<sup>1)</sup>に成長<sup>2)</sup>

一般名	grapiprant (グラピプラント)
適応症	犬の慢性骨関節炎
販売元	Elanco Animal Health, Inc. (米国/Elanco社)



グレリン受容体作動薬

## ENTYCE™

## ELURA™

米国で販売中

米国・欧州・日本ほかで販売中

一般名	capromorelin (カプロモレリン)
適応症	犬の食欲不振 (ENTYCE™) 慢性腎疾患またはその他の慢性疾患を伴う猫の体重減少管理 <sup>3)</sup> (ELURA™) ほか
販売元	Elanco社

1) ここでは年間売上高が100億円を超える規模の製品のことをブロックバスターと称しています; 2) Elanco社 2021年度決算発表 (2022年2月24日); 3) 適応症は国・地域によって異なります。



## 開発パイプライン

800億円以上の潜在収益を持つ充実したパイプライン

上市製品

成長戦略

競争力の  
源泉



当社は導出済み段階のみで**13プログラム**という豊富なパイプラインを有する

(2026年2月1日現在)

導出済み

導出準備



注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて標的疾患ごとにわけて表示しています。

注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。

注3) 今回から動物薬については、POC試験を前臨床試験、パイロット試験をフェーズ2試験、ピボタル試験をフェーズ3試験として表示することとしました。

詳細につきましては当社ウェブサイト (<https://www.raqualia.com/ja/index.html>) の「開発情報」にてご確認ください。

既存契約に基づくマイルストーン/ロイヤルティの潜在収益で**800億円以上**

## 開発マイルストーン<sup>1)</sup>



## 販売マイルストーン<sup>2)</sup>



## ロイヤルティ<sup>3)</sup>



- 1) 開発マイルストーン：あらかじめ定めた開発段階（例：フェーズ1試験、承認申請、製品発売等）に到達した際に得られる収入。相対的に短中期的に得られるマイルストーン収入
- 2) 販売マイルストーン：製品発売後、製品の売上高があらかじめ定めた額に達した際に得られる収入。相対的に長期的に得られるマイルストーン収入
- 3) ロイヤルティ：製品発売後、製品の売上高に応じて得られる収入。ロイヤルティを受領できる期間はパイプライン・契約ごとに異なる

（注1）連結子会社のファイメックスの契約による収益を含みます。

（注2）開発マイルストーンおよび販売マイルストンの最大総額は、開発または販売の進捗に基づき、予め定める条件を満たしたときに得られる金額の最大値を示しています。ただし、マイルストンの受取方法を「ライセンス先がサプライセンス先から得た収入の一部」と定めている場合は具体的な額が不明なため、上記の最大総額には含めておりません。

（注3）医薬品開発の成功確率は一般的に高くないため、全てのパイプラインが製品発売に至るとは限らない点にご留意ください。また、製品販売の進捗によっては販売マイルストーンが得られないこともあります。

## グレリン受容体作動薬 RQ-00433412

### 作用機序

大腸の運動亢進による排便の誘発 / 食欲の刺激および成長ホルモン分泌による体重増加（下図参照）

### 想定適応症

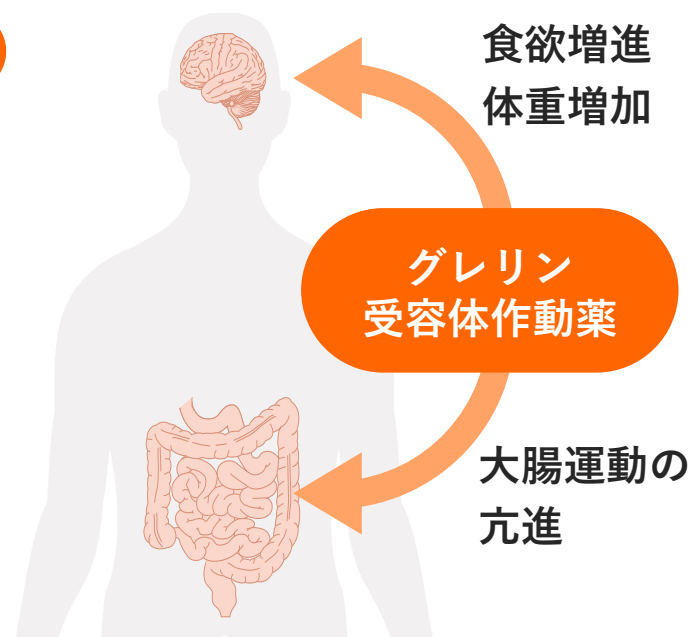
便秘 / 悪液質に伴う食欲不振

### ステージ

前臨床（GMP製造完了） / 導出活動中

### RQ-00433412の特長

- ホルモン『グレリン』の作用を模倣する低分子化合物
  - 「グレリン受容体作動薬」という作用機序は上市製品「ENTYCE™」「ELURA™」と共通
- 高い生物活性
- 経口投与可能
- 排便亢進・体重増加作用



### がん悪液質

- 進行がん患者の80%で発症
- がん関連死の30%に関係
- 治療オプションは極めて限定

### 便秘

- 慢性便秘は人口の10-15%
- 高齢者ではさらに高い割合
- 脊髄損傷患者の約60%
- 既存薬ではニーズ未充足

# 自社パイプライン|IRAK-M分解誘導薬

## 自社創薬プログラム：IRAK-M分解誘導薬 FIM-001

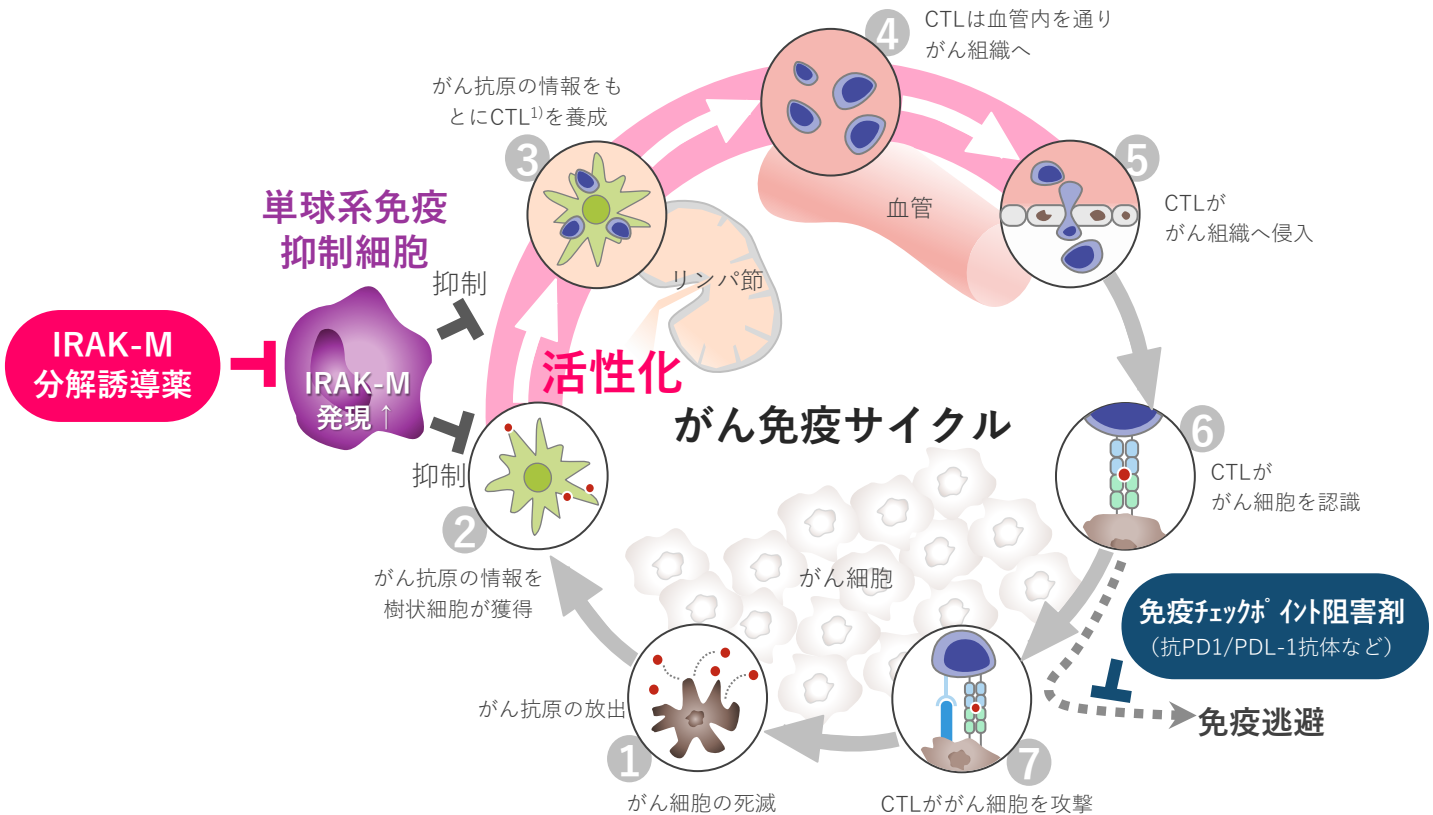
標的と作用機序	IRAK-Mの分解による免疫抑制機構の解除を機序としたがん免疫療法（下図参照）
想定適応症	各種がん（非小細胞肺癌，膵臓がん ほか）
ステージ	臨床開発準備中 / 導出活動中

### FIM-001の特長

- がん免疫療法における新規メカニズム
- 免疫チェックポイント阻害剤への抵抗性克服の可能性

### 想定される主な適応がん種と年間罹患者数

がん種	新規罹患者数
非小細胞肺癌	米国: 18万人/年 日本: 11万人/年
膵臓がん	米国: 4.9万人/年 日本: 3.2万人/年



1) CTL: 細胞障害性T細胞（Cytotoxic T cells）

## 開発パイプライン

## 成長戦略

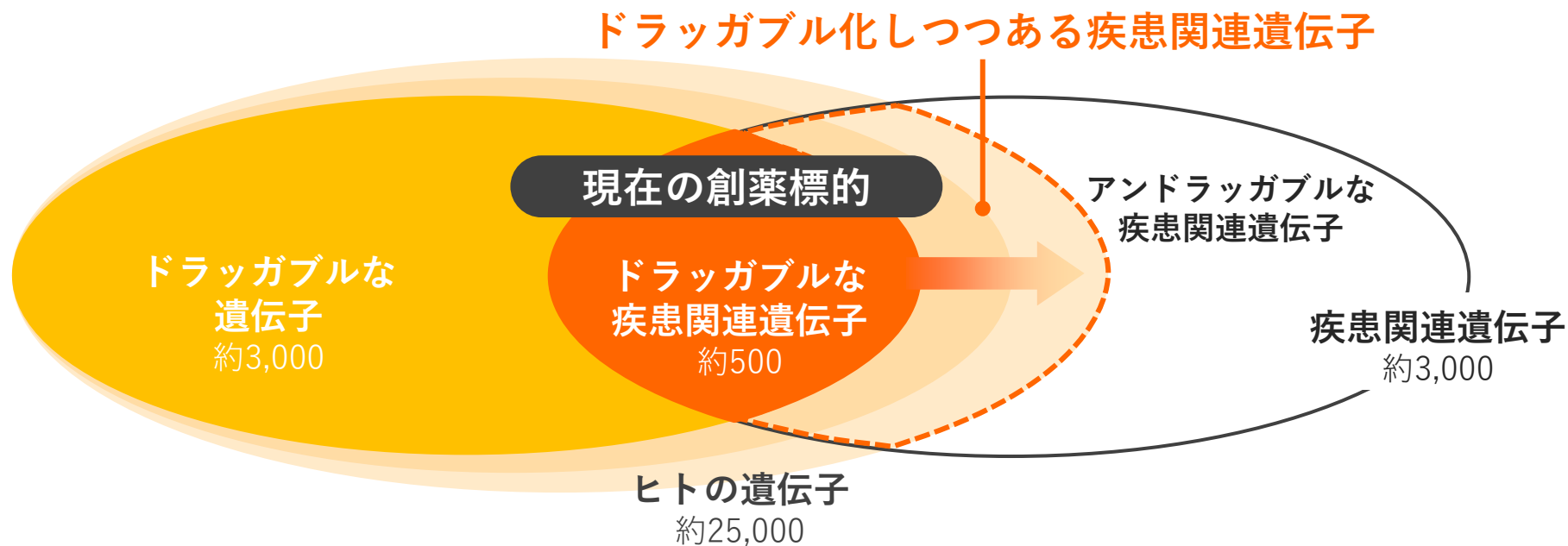
創薬力をキードライバーとし  
成長性と収益性を高めていく

## 上市製品

競争力の  
源泉

医薬品の創出が困難とされてきた疾患関連遺伝子を**創薬力の強化**によって開拓する

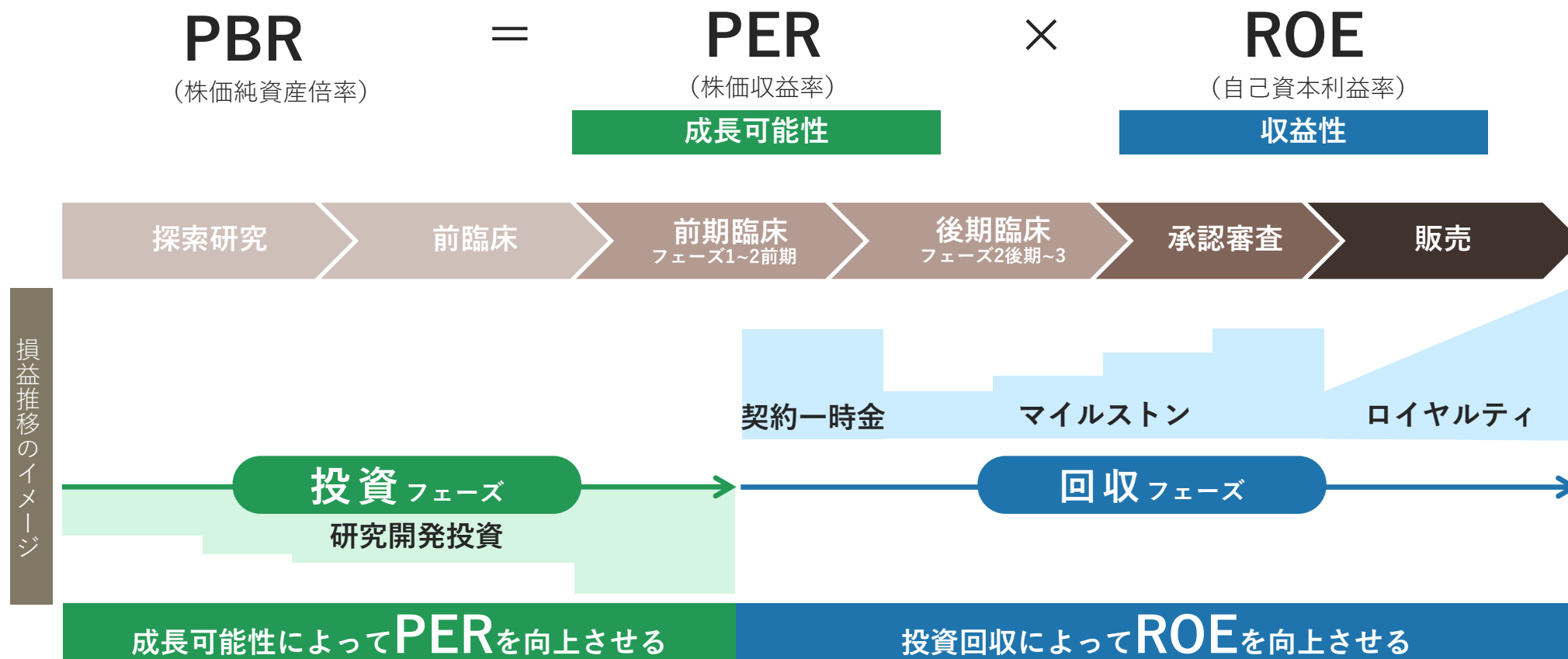
## アンドラッグابلを **ドラッグابل** へ



ドラッグابلとは、化合物・抗体等の物質により受容体等の標的の分子の機能を調節できる可能性が高いことを意味し、ドラッグابلかそうでないかによって新薬候補を生み出せるかどうかが大きく左右されます。

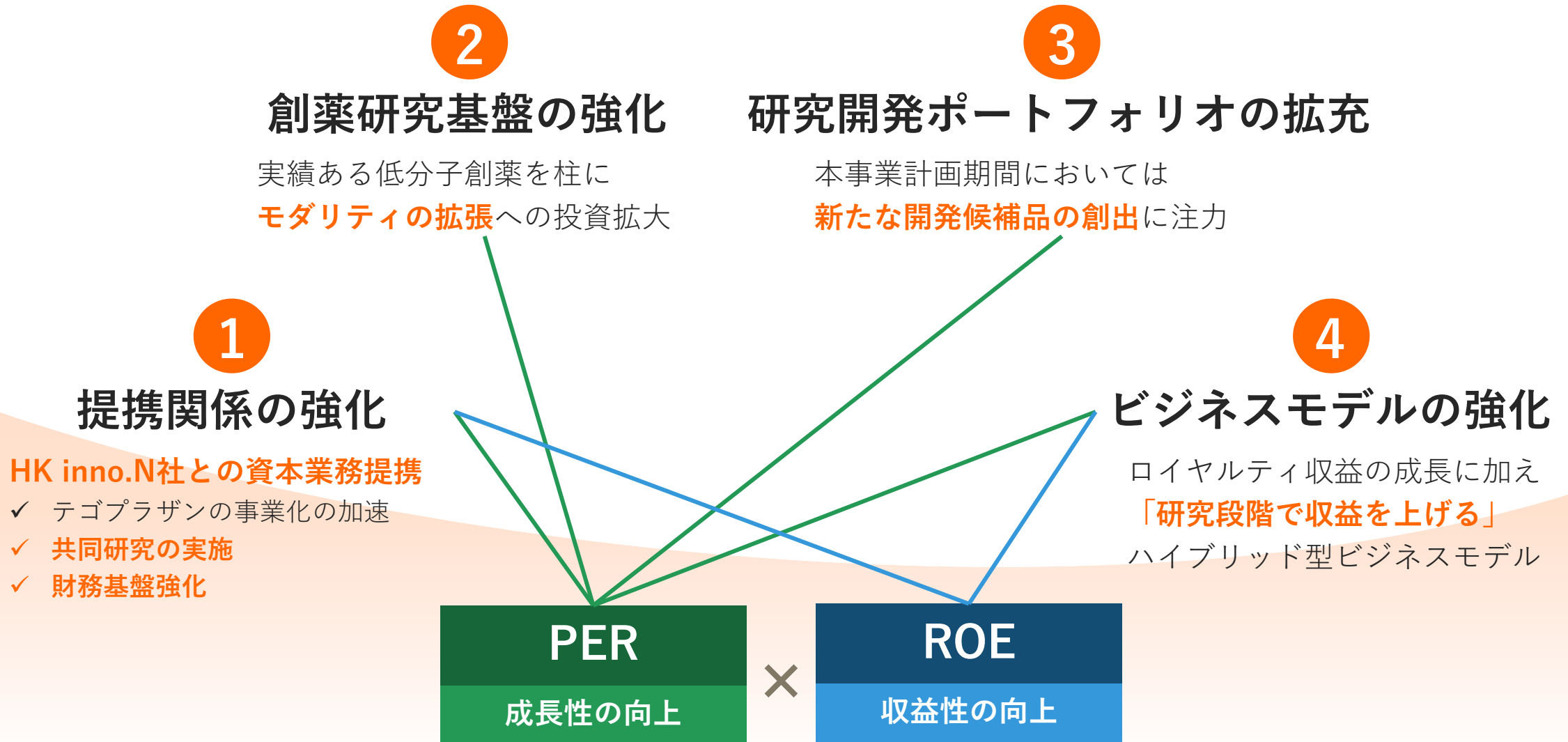
# 成長性と収益性の両輪で株主価値を高めていく

創薬ベンチャーの株主価値の中心は成長性にあるが、投資回収フェーズにある上市製品を持つ当社は、**成長性と収益性の両輪で株主価値を高める**ことが可能である上、事業収益と得た資金を投資に充てられる





# 企業価値・株主価値向上のための重点4施策







# 提携強化 | HK inno.N 社との連携によって事業の推進力を強化

本事業計画期間は、テゴプラザンの事業化を加速するとともに、**高い付加価値と大きな事業化ポテンシャルをもつ「第二、第三のテゴプラザン」**を萌芽させる期間となる



## テゴプラザンの 事業化加速

テゴプラザンの日本国内での事業化をHK inno.N社に託し、**日本発のイノベーションを日本の患者さんに**



## 共同研究による 導出機会の増加

両社の強みに基づく共同研究を行い、**HK inno.N社の開発力・グローバルネットワーク**を活かして1日でも早く世界の患者さんに



## 財務基盤の強化

**累計24億円<sup>1,2)</sup>の調達資金**を原資に創薬基盤の強化、パイプラインの拡充、設備投資の強化および財務健全性の維持を実現

1) 「第三者割当による新株式の発行に係る払込完了に関するお知らせ」 (2025年4月18日当社お知らせ)

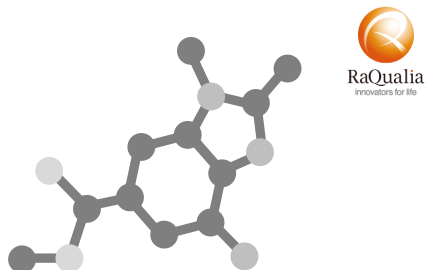
2) 「第三者割当による新株式の発行に係る払込完了に関するお知らせ」 (2026年1月29日当社お知らせ)

当社が実績を持つ低分子化合物に引き続き注力しつつ、新規モダリティへの展開を進めて

**アンドラッグブルなタンパク質**に挑む

新規モダリティの活用により**効率的かつ持続的に新規パイプラインを創製**する

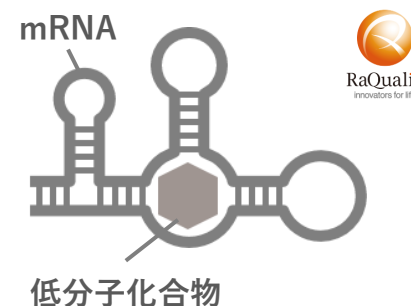
## 低分子化合物



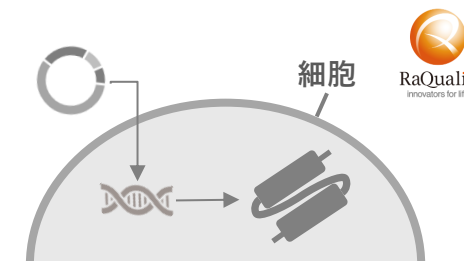
## 標的タンパク質分解誘導剤 (TPD)



## mRNA標的低分子



## 細胞内抗体 (intrabody)



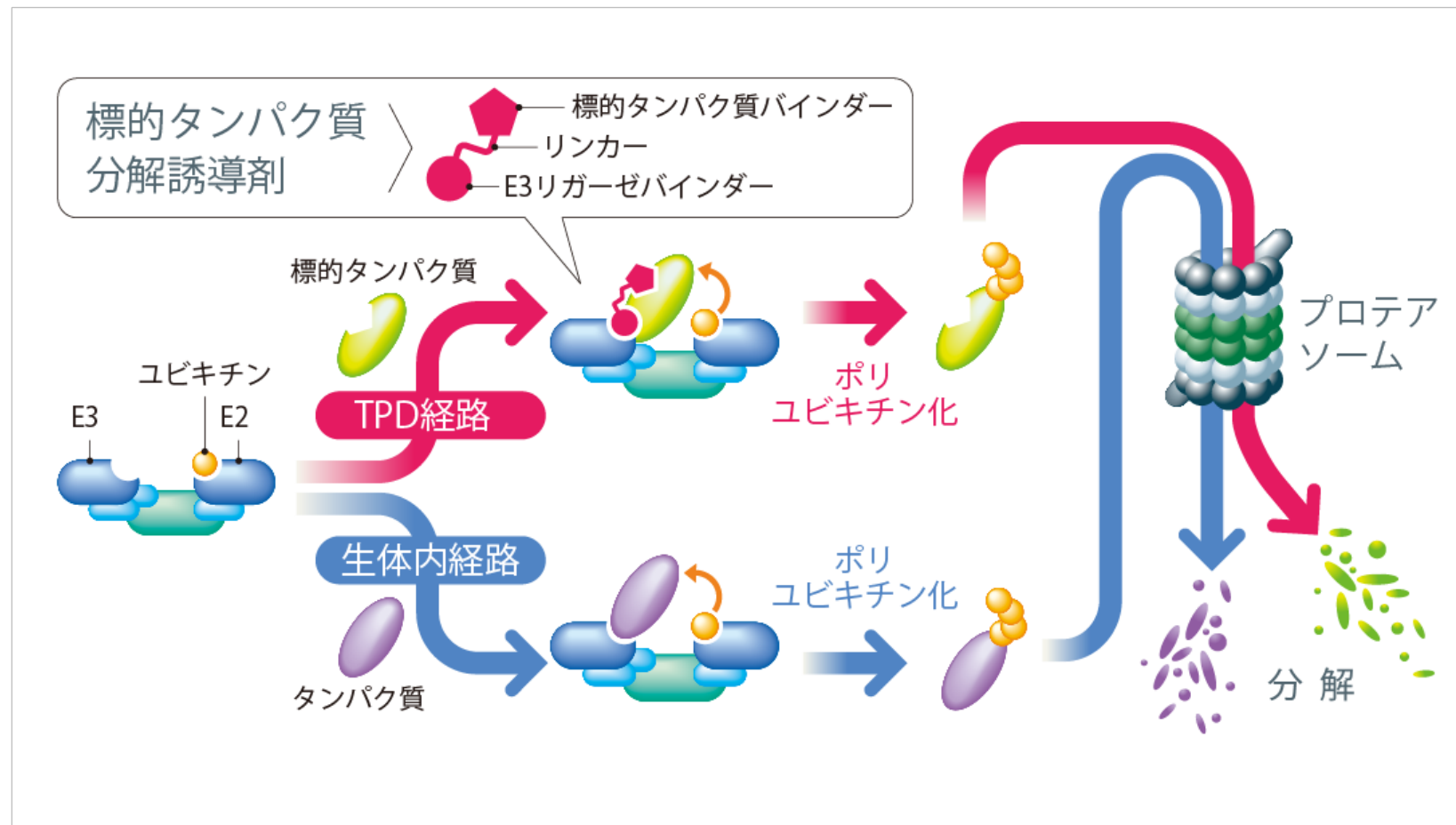
### 最も普及したモダリティ

- 化学合成で製造可能  
(相対的に安価)
- 一般的に経口投与可能
- アンドラッグブルなタンパク質が数多く残されている

### 近年注目を浴びる新規モダリティ

- 疾患の原因タンパク質を分解することで効果を発揮
- 化学合成で製造可能
- 経口投与可能な薬剤が増加
- mRNAに結合してタンパク質の生成を抑制
- 化学合成で製造可能
- 経口投与の実現可能性大
- 細胞内で機能する抗体
- 既存モダリティでなし得ない特異的/特徴的な作用に期待
- 経口投与は困難
- バイオ医薬品としての製造

生体内に備わる不要タンパク質除去機構を利用した**新たなモダリティ**



-  幅広い  
標的タンパク
-  触媒的に作用
-  低用量での  
薬効の持続性
-  2026年中に  
世界初のTPDが  
承認される



RaQualia  
innovators for life

# 創薬研究基盤 | 創薬プラットフォームRaPPIDS™



事業計画および  
成長可能性に関する事項

3 事業戦略



理論上 **10億** 以上の組合せ  
毎週 **1,500** 化合物を合成可能

TPD創薬を加速するハイスループット合成・評価システム

## 高い生産性

週1,500を超える化合物の合成能力と、細胞内でのタンパク質分解を直接検出するハイスループット評価系で開発化合物の創出を加速化

## 自社オリジナルの 新規E3リガーゼ結合分子

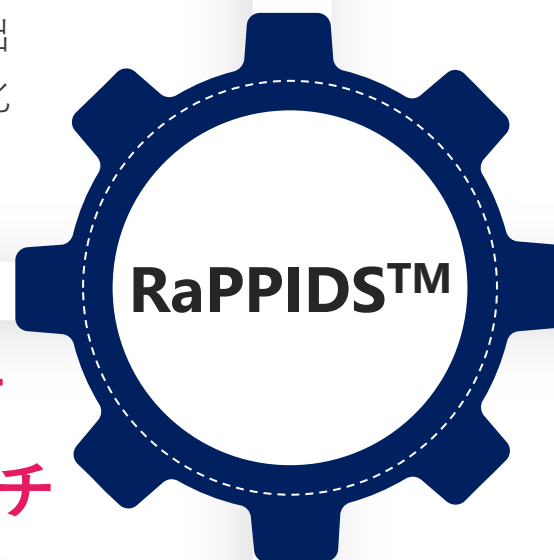
様々な標的分子の分解に応用可能なE3リガーゼ結合分子を複数同定済み  
組織特異的標的分解、副作用の回避などにつながる可能性

## 新規E3結合分子を見出す スクリーニングアプローチ

新規かつ最適なE3リガーゼ結合分子を同定する独自手法により、優れた化合物特性を持つ開発化合物を多種多様な疾患に対して創出可能

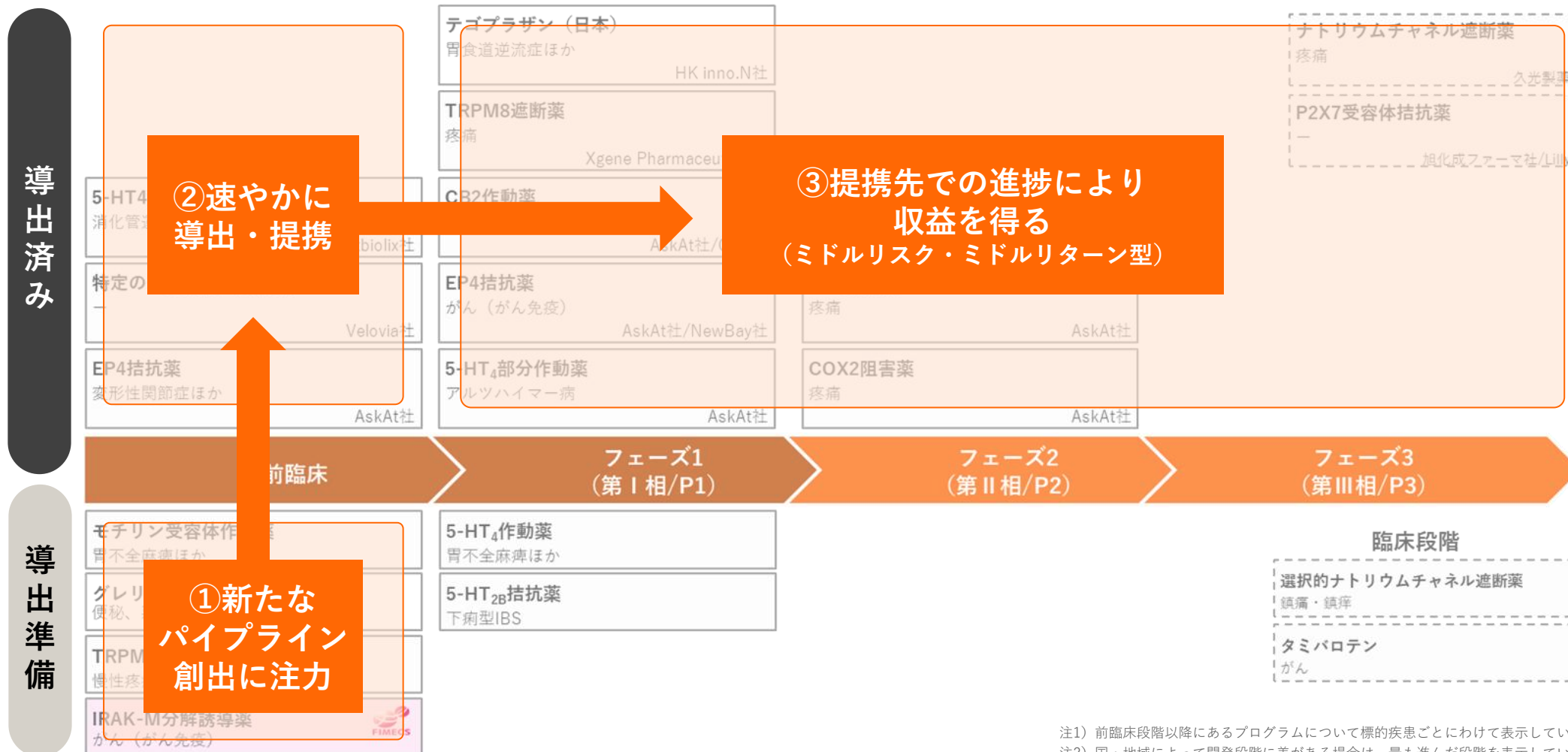
## 経口治療薬の創出力

TPDの課題である低バイオアベイラビリティを克服し、経口投与可能な開発化合物を創出する専門的ノウハウの蓄積



本事業計画期間は自社単独での臨床開発投資は行わず **新たな開発パイプラインの創出と導出に注力**

開発段階非開示



注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて標的疾患ごとにわけて表示しています。

注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。

注3) 今回から動物薬については、POC試験を前臨床試験、パイロット試験をフェーズ2試験、ピボタル試験をフェーズ3試験として表示することとしました。  
詳細につきましては当社ウェブサイト (<https://www.raqualia.com/ja/index.html>) の「開発情報」にてご確認ください。

アンメットニーズが残される疾患領域の中で当社のノウハウが活用できる**神経疾患とがんを重点化**  
**HK inno.N社との共同研究では代謝・内分泌疾患領域の創薬研究に着手**  
 産学官のパートナーとの連携を軸に創薬研究の効率をさらに高めていく



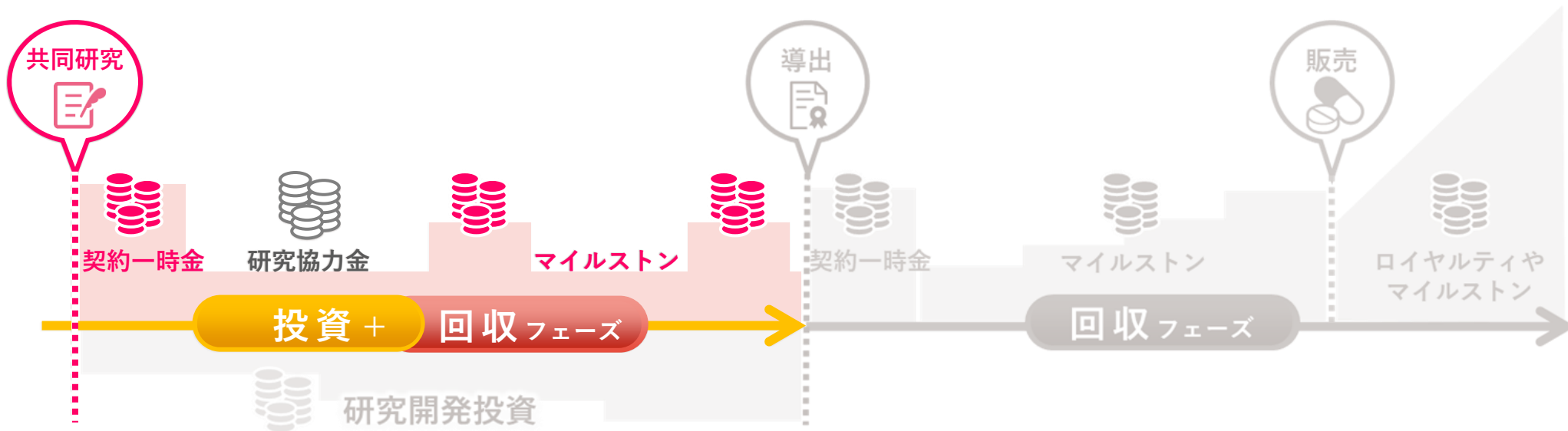
2026年期初における探索研究段階のプログラム数 **12** (前年比 +1)



研究段階から、契約一時金、研究協力金、マイルストーン等を得るハイブリッド型のビジネスモデル。  
子会社**ファイメクス**は**2025年12月期において10億円を超える収益**を獲得

2025年12月期の  
ファイメクスの事業収益 約**10.5億円**

契約一時金・マイルストーン	600百万円
研究協力金	452百万円



## 契約一時金

製薬会社等とのライセンス  
契約締結時に得られる収入

## 研究協力金

契約相手先から研究を請け  
負った際に得られる収入

## マイルストーン

開発の進展、あるいは製品発売後に  
一定の売上高に達した際に得られる収入

## ロイヤルティ

製品発売後に売上高の  
一定割合を得られる収入



# 4

## 事業計画

2026年12月期～2028年12月期

innovators for life

# 2025年12月期～2027年12月期の3カ年目標の経過

2025年2月に発表した3カ年目標の**2025年12月期末時点における進捗は良好**

## 2025年の達成状況

### 収益

2025年12月期～2027年12月期の3期連続営業黒字  
2027年12月期までの3期累計の事業収益111億円



営業黒字化達成  
事業収益40億円

### 研究

2027年12月期までに開発候補化合物2個を創出  
ラクオリア/ファイメクスの協働体制による成果（プラットフォーム/パイプライン）



取組み進行中

### 開発

グレリン受容体作動薬/IRAK-M分解誘導薬の導出 & 導出先での臨床試験開始  
新たな開発プログラムの前臨床試験開始



取組み進行中

### 契約

導出準備プログラムから毎年1件のライセンス契約（テゴプラザン（日本）を含む）  
ファイメクスのプラットフォーム事業において毎年1件の共同研究契約



各1件達成  
・テゴプラザン（日本）  
・アステラス製薬の契約拡大

前3カ年目標の発展形として2026年12月期～2028年12月期の3カ年目標を設定

## 収益

- 2026年12月期～2028年12月期の**3期連続営業黒字**
- 2028年12月期までの3期累計の**事業収益128億円**

## 研究

- 2028年12月期までに**開発候補化合物 3個を創出**
- ラクオリア/ファイメクスの協働体制による成果  
(プラットフォーム/パイプライン)
- HK inno.N社との**共同研究による成果** (パイプライン)

## 開発

- グレリン受容体作動薬/  
IRAK-M分解誘導薬の  
**導出 & 導出先での臨床試験開始**
- **新たな開発プログラムの前臨床試験開始**

## 導出

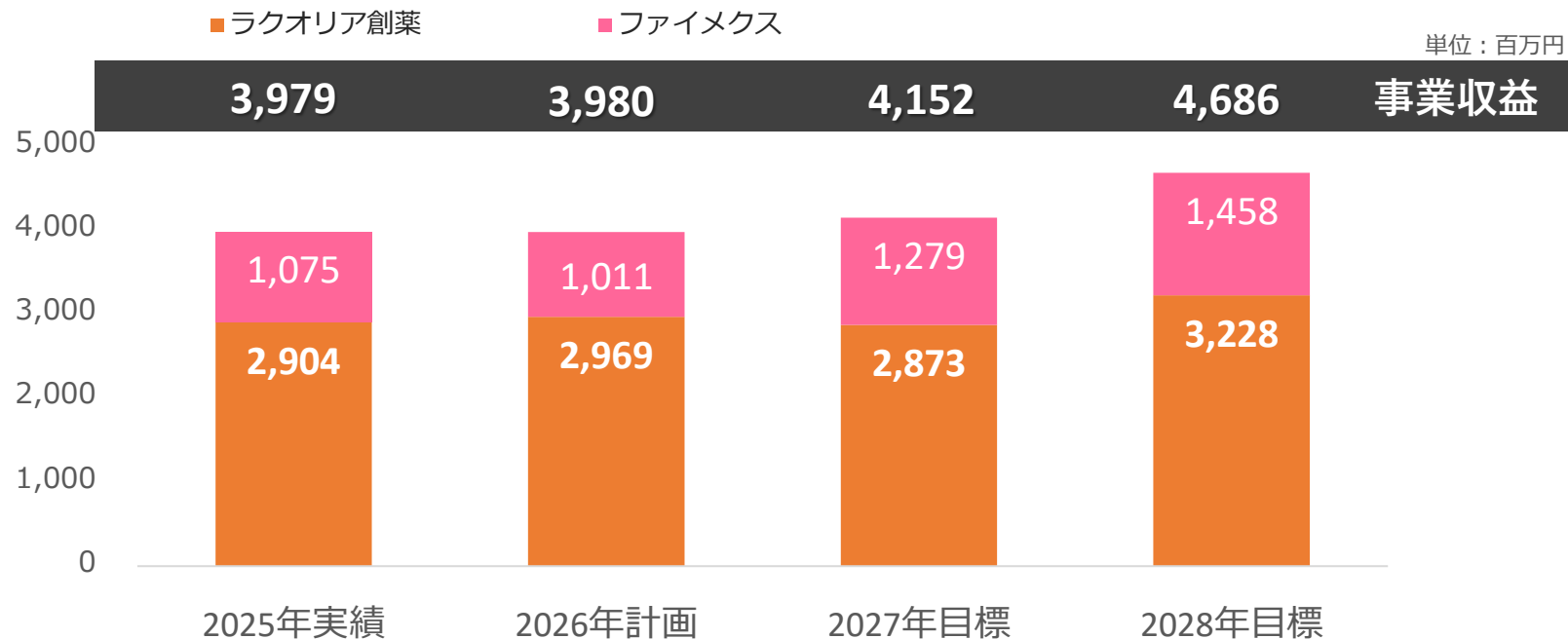
- 導出準備プログラムから  
**毎年1件のライセンス契約**
- ファイメクスのプラットフォーム事業において  
**毎年1件の共同研究契約**

# 連結業績予想および今後の目標

2025年12月期は期初目標を上回る業績で着地。本事業計画期間においてもさらなる成長を見込む

単位：百万円

	実績	計画	目標	
	2025年 12月期	2026年 12月期	2027年 12月期	2028年 12月期
事業収益	3,979	3,980	4,152	4,686
事業費用	3,496	3,814	3,872	3,777
営業利益	483	165	279	909
経常利益	437	86	212	864
親会社株主に帰属する 当期純利益	273	△63	54	676
EBITDA	965	685	824	1,426
為替 (米ドル/日本円)	150	150	150	150



## 2026年

テゴプラザンのグローバル展開の拡大によるロイヤルティ収入の順調な増加を見込む。子会社を含め契約一時金、マイルストンおよび研究協力金収入の獲得を予定しており、事業収益合計として前年同額の3,980百万円を見込む

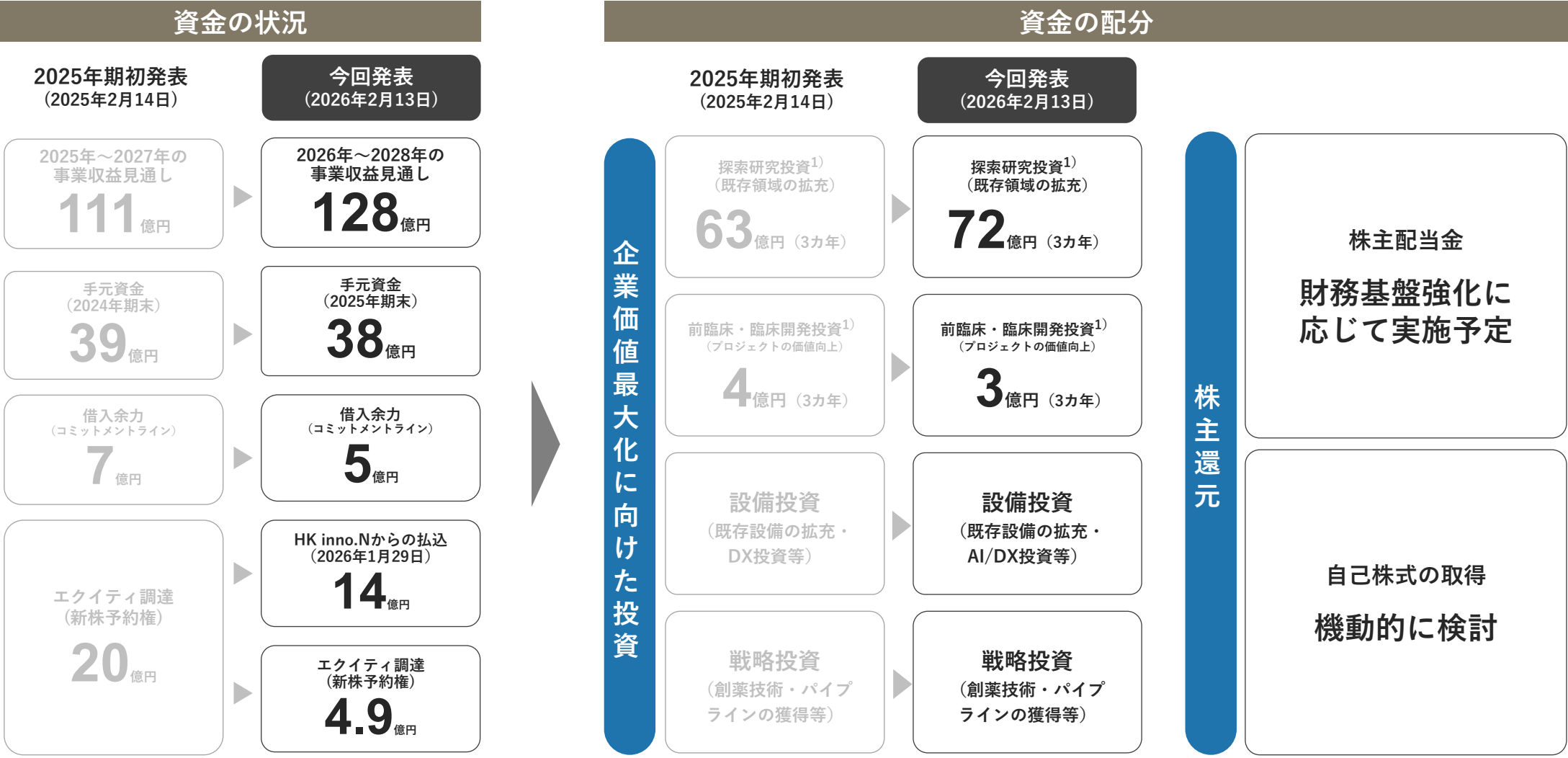
## 2027年

前年に引き続いてテゴプラザンのロイヤルティ収入の順調な増加と子会社ファイメクスの事業成長を見込む。一方、パイプラインの状況により、ラクオリアが受け取る契約一時金・マイルストン等が前年比やや減。あわせて事業収益合計4,152百万円を見込む

## 2028年

テゴプラザンのグローバル展開の拡大が継続し米国での製品販売に基づくロイヤルティが収益に寄与し始める年。契約一時金、マイルストンなどのその他収益とあわせ、事業収益合計4,686百万円を見込む

資金の状況と配分には**大きな変更無し**



1) 人件費を含みます。

プログラム		想定適応症	国地域	研究開発段階	短期 (2026年)	中期 (2027-2028年)	導出先/提携先
テゴプラザン		胃食道逆流症等		フェーズ3	承認審査	承認取得 製品発売	HK inno.N社 Sebela社/Braintree社
				フェーズ1	後期臨床試験の実施		HK inno.N社
				前臨床	導出契約締結	後期臨床試験の実施	HK inno.N社 提携先企業
TRPM8遮断薬		慢性疼痛		フェーズ1	臨床試験の進展（フェーズ1→フェーズ2）		Xgene社
グレリン受容体作動薬		便秘・悪液質	全世界	前臨床	導出	臨床試験の実施	提携先企業
IRAK-M分解誘導薬		がん (がん免疫)	全世界	前臨床	臨床開発準備 導出	臨床試験の実施	提携先企業
既存共同研究プログラム		がん	全世界	研究	共同研究の進展（マイルストーン）		アステラス製薬社 HK inno.N社
新規共同研究プログラム	 	未定	全世界	研究	新規契約獲得	新規契約獲得	提携先企業
P2X7受容体拮抗薬		未定	全世界	(非開示)	開発計画の再検討＆開発再開		旭化成ファーマ社 Lilly社

想定される進捗イベントの内容や時期は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う当社独自の想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

# 5

## 事業リスク

事業リスクおよび免責事項

innovators for life



主要なリスク	リスクの内容	リスク顕在化の可能性・時期
医薬品の研究開発の環境	一般的に、医薬品の研究開発には、長期間の研究開発期間と巨額の費用が必要とされる一方、成功確率はきわめて低いものとされております。また、研究開発、製造および販売等の事業活動において、各国の法規制の影響を強く受けております。品質、有効性および安全性等において医薬品としての有用性を示せず開発が中止される可能性、法規制の国ごとの差異等により開発の遅延や費用の増大が発生する可能性があります。	低・全期間
競合	多くの製薬会社や創薬ベンチャー企業等による研究開発活動が行われており、当社グループの研究開発との間に競合関係が存在しております。競合品の存在やその他の研究開発の進捗等が当社グループの開発候補化合物の導出等に影響を及ぼす可能性があります。	中・全期間
導出等による収益獲得	一般的に、製薬会社等における共同研究の実施や導入の評価・判断は、個々の製薬会社等により異なります。当社グループが契約締結を企図するプログラムや開発候補化合物が製薬会社等における導入や当社グループとの業務提携の目的を充足する保証はなく、企図した時期に契約締結に結びつかない、または契約条件が当社グループの想定と異なる等の可能性があります。	中・全期間
為替リスク	当社グループは事業活動をグローバルに展開しており、海外での研究開発活動や海外企業とのライセンスにおいて外貨建取引が存在します。そのため、急激な為替変動によって為替リスクが顕在化する可能性があります。	中・全期間

※その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

主要なリスク	リスクの対応策
医薬品の研究開発の環境	最新の創薬技術の導入と医療ニーズをとらえた研究開発計画によって、成功確率の向上に努めるとともに、リスクとリターンに応じたポートフォリオ戦略により、リスクの分散化と最小化に努めます。各国の法規制による影響については、レギュレーションに関する情報の取得と現地導出先とのコミュニケーションを適切に行うことでリスクを予見し回避します。
競合	治療法が確立されておらず未充足の医療ニーズが残されている疾患を標的とすること、自社開発および戦略的な提携によって技術的な優位性を確保すること、効率化を進め研究開発の速度を上げることで競合企業よりも先んじること等によって、競争によって収益機会を損失するリスクを低減します。
導出等による収益獲得	競合リスクへの対応策と同様に、未充足の医療ニーズが残されている疾患を標的とすることや、技術的な優位性によって良質の開発候補化合物を創出することで、幅広い顧客の評価・判断の基準を満たすことを目指します。また、一定水準の研究開発プログラム数を確保し、開発候補品を生み出すことで、リスクの分散化を図ります。さらに、臨床試験等を当社グループが実施することで承認取得までの成功確率の向上と期間の短縮を図ることで、当社の保有する開発候補化合物/プログラムの価値を高め、契約一時金、マイルストーン収入、販売ロイヤルティ等の収益性を高めます。
為替リスク	為替予約等のリスクヘッジにより急激な為替変動に備えます。



- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品（研究開発プログラムおよび化合物）に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

# 6 次回開示の予定時期

innovators for life

- ◆ 次回の開示は2027年2月に更新し開示する予定です。
- ◆ 事業環境の変化等で事業の進捗や計画に大きな変更が生じた場合は、変更が確定した時点で速やかにお知らせいたします。



# 補足資料 1

事業計画の前提条件

innovators for life

## テゴプラザンのグローバル化がさらに拡大。上市済み諸国での販売が伸長し導出地域も増加すると想定

- **韓国**：韓国商品名『K-CAB®』の販売は、2025年に引き続き、順調に推移する見込み。P-CABという新しいクラスの酸分泌抑制剤の市場規模が順調に拡大する中で市場シェアトップを引き続き維持し、今後も成長を維持すると見込む
- **中国**：中国商品名『泰欣赞®』。2025年12月、ピロリ菌除菌補助療法が国家保険償還対象薬リスト（NRDL）に収載。40-60%という高いピロリ菌の感染率を背景に、本事業計画期間内に年間売上が200億円を超えて大きく伸長することを当社は期待
- **米国**：2025年8月に臨床第3相試験の結果発表。PPIに対する優位性を確立した世界初のP-CABとしての地位を確立。2026年1月のFDAに承認申請済。2027年初頭の承認取得を見込む。米国の市場規模は4,000億円に迫る。Sebelia社が想定する最大売上ポテンシャルは1,500億円（10億米ドル）だが本格的な売上伸長は本事業計画期間の後。2030年に年間売上500億円に到達すると当社は期待
- **日本**：2025年12月、当社はHK inno.N社にライセンス許諾。HK inno.N社がこれまでに蓄積した情報とノウハウを活用して本事業計画期間内に日本国内での実用化を推進する。世界第3位の市場（2,500億円）での製品発売によって2030年代のロイヤルティ収入の柱となることを当社は期待しているが本事業計画期間内には製品発売には到達しない見込み
- **欧州**：米国での進展を背景にHK inno.N社による欧州での開発・販売先の獲得が進むと期待される。欧州への進出は「2028年に世界100カ国」の鍵を握る。日本と同様に、2030年代のロイヤルティ収入の柱となることを当社は期待
- **その他地域**：フィリピン・インドネシア・マレーシア・タイ・インド・メキシコ・ペルー・チリなどの17か国で販売中。エクアドル・パラグアイ・ロシアで承認取得済み。ブラジルではサブライセンス先が原薬製造に関するGMP認証を取得。中東・北アフリカ・豪州・ニュージーランドでもサブライセンス先企業が事業化に向けた取組みを実施
- **その他の国・地域における導出に向けた動き**：
  - ・ HK inno.N社がさらにサブライセンス先を開拓しさらに多くの国・地域に進出すると当社は想定。当社はHKイノエン社が得た収益の一定割合を受領する権利を保有

## 上市済みペット用医薬品の販売は引き続き安定的に推移すると想定

- **EP4拮抗薬**：エランコ社による犬の骨関節炎治療薬『GALLIPRANT®』の販売は前年に引き続いて順調に推移し、日米欧を含む上市済の国・地域において安定的な売上を維持すると想定。当社は契約で定めるマイルストーンと販売額に応じたロイヤルティを受領する権利を保有
- **グレリン受容体作動薬**：エランコ社による犬の食欲不振症治療薬『ENTYCE™』ならびに慢性腎疾患/その他の慢性疾患の猫の体重減少管理の薬『ELURA™』の売上拡大に期待。『ELURA™』『Eluracat™』『エルーラ™』については販売国がさらに増加することで販売開始による収益の増加を見込む。当社は契約で定めるマイルストーンと販売額に応じたロイヤルティを受領する権利を保有
- コロナ禍以降、新たに飼われるペットの数が増加。関節炎や食欲不振、慢性腎疾患は加齢により増加するため、中長期的に患者数が増加することは確実とみられ、本事業計画期間の後半ではその影響がプラス要因として働く可能性も期待される
- ペット用医薬品には薬価制度が無く、飼い主の評価の高い製品は安定的な売上が確保される傾向。ブロックバスターに成長した『GALLIPRANT®』と、有力な競合薬が存在せず独自のポジションにある『ENTYCE™』および『ELURA™』は、本事業計画期間を通じてブランド品の地位を維持するものと期待



## 導出済みパイプラインの開発がライセンス先企業によって進行中。進捗に応じたマイルストンの獲得を見込む

- **TRPM8遮断薬**（第Ⅰ相臨床試験）、**COX2阻害薬（動物薬）**（パイロット試験（ヒトの第Ⅰ相臨床試験に相当））、**5-HT<sub>4</sub>作動薬（動物薬）**（POC試験（ヒトの前臨床試験に相当））、**ナトリウムチャネル遮断薬**（開発段階非開示）をはじめとする導出済みパイプラインの開発がライセンス先で進行中。本事業計画期間内に所定のマイルストンを達成した場合、契約に定める一時金を受領する可能性あり。その一方、試験結果やライセンス先の状況によって進捗に影響が及ぶ可能性もある
- **P2X7受容体拮抗薬**については、2025年10月、サブライセンス先のEli Lilly社が標的疾患をPainとして開発されていた本化合物を同社のパイプラインから除外。同社は、現在、今後の開発プランの再検討を行っている段階

## 新たなライセンス契約締結による一時金収入の獲得

- 導出準備プログラムおよび現在探索研究段階にあるプログラムからの新規開発候補化合物について、年1件以上の契約締結により一時金収入を得る計画を維持

## 子会社ファイメクス株式会社のプラットフォーム事業が当社業績に引き続き寄与する見込み

- **既存の共同研究プログラム**：アステラス製薬株式会社との共同研究を継続して実施。2025年は、3月に目標達成による一時金2億円を受領。さらに11月には当該共同研究に新たに2つの標的を追加することによる一時金4億円を受領。ファイメクスは研究実施に伴う研究協力金、研究開発の進展に応じたマイルストン達成に伴う一時金および製品発売後の売上高に基づく販売ロイヤルティ等を受領する権利を保有。本事業計画期間においても引き続き当社業績に貢献すると期待
- **新規の共同研究プログラム**：本事業計画期間において上記の既存プログラムと同様の共同研究契約を毎年1件以上獲得し、契約一時金、研究協力金、研究開発の進展に応じたマイルストン達成に伴う一時金等を取得することを想定



## 補足資料 2

経営上の重要な契約等（一部抜粋）

innovators for life

導出に関する主な契約			
対象パイプライン	契約書名	契約先	契約締結日
EP4拮抗薬	EXCLUSIVE IP LICENSE AGREEMENT FOR RQ-00000007（導出契約）	Aratana Therapeutics, Inc. （米国、現Elanco Animal Health, Inc.（米国））	2010年12月27日
グレリン受容体 作動薬	EXCLUSIVE IP LICENSE AGREEMENT FOR RQ-00000005（導出契約）	同上	同上
カリウムイオン競合型 アシッドブロッカー	LICENSE AGREEMENT（導出契約）	CJ HealthCare Corporation（韓国、現HK inno.N Corporation(韓国)）	2010年 9 月 3 日
	このほか、関連する契約として、東南アジア、中南米、中東、北米および欧州地域、ならびに日本における同様の権利許諾を行う契約を締結済み		
P2X7受容体拮抗薬	ライセンス契約	旭化成ファーマ株式会社	2018年3月26日
TRPM8遮断薬	License Agreement for RQ-00434739	Xgene Pharmaceutical Co. Ltd.（香港）	2021年9月22日
ナトリウムチャネル 遮断薬	ライセンス契約	久光製薬株式会社	2021年12月20日

このほか、カリウムイオン競合型アシッドブロッカーに関連する契約として、当社は、CJ HealthCare Corporation（韓国、現HK inno.N Corporation（韓国））との間で、東南アジア、中南米、北米、欧州地域、日本等における同様の権利許諾を行う契約3件を締結しています。

権利の譲渡に関する主な契約			
対象パイプライン	契約書名	契約先	契約締結日
EP4拮抗薬	SALE AND PURCHASE AGREEMENT（権利売買契約）	株式会社AskAt	2013年 1 月29日

このほか、類似の契約として、当社は、株式会社AskAtとの間で、シクロオキシゲナーゼー 2（COX-2）阻害薬、5-HT4部分作動薬およびCB2作動薬プロジェクトに関する契約を締結しています。

その他の契約			
対象	契約書名	契約先	契約締結日
シンジケートローン	金銭消費貸借契約書	株式会社みずほ銀行をアレンジャー、株式会社商工組合中央金庫をコ・アレンジャーとするシンジケート団	2024年 3 月21日

各契約の内容及びその他の契約につきましては2025年3月23日に公表予定の有価証券報告書にてご確認ください。





# 補足資料 3

その他の補足資料

innovators for life

## ヒト用医薬品との最大の違いは**薬価制度が存在しないこと**

- 🐾 薬価改定や後発品の影響が小さい
- 🐾 飼い主の評価が高い製品は売上が安定する傾向

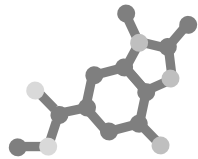
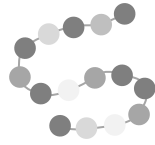


	薬価	後発医薬品	消費者動向
 <b>ヒト用医薬品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬価制度・保険制度の影響大</li> <li>政府・保険会社側に価格決定力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多数の企業が低価格で参入</li> <li>行政が後発品使用を促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先発品にこだわらず、低価格の後発品を選ぶ傾向</li> </ul>
 <b>ペット用医薬品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公定薬価制度が無い</li> <li>メーカー側に<b>価格決定力</b>がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少数の企業がやや低い価格で参入</li> <li>行政による<b>後発品使用促進がない</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼い主はブランドを重視し、<b>同じ製品を使い続ける傾向</b></li> </ul>

当社の導出済みプログラムは**市場ポテンシャルが大きい**疾患を対象としている

疾患名	関連する 開発パイプライン	患者数	市場規模（地域）	既存薬
胃食道逆流症 <sup>1,2)</sup>	テゴプラザン	5,800万人（米国） 1,700万人（日本）	2兆円（全世界） 4,000億円（米国） 2,700億円（日本）	H2RA、PPI、 ボノプラザン
疼痛 <sup>3-5)</sup>	EP4拮抗薬、 COX2阻害薬、 TRPM8遮断薬、 ナトリウムチャネル遮断薬	5,000万人（米国） 2,300万人（日本）	8兆円（全世界） 6,000億円（日本）	プレガバリン、 デュロキセチン、 セレコキシブ 他
がん免疫 <sup>6)</sup>	EP4拮抗薬 IRAK-M分解誘導薬	がん患者の約12%が がん免疫療法に応答	12兆円（全世界）	ニボルマブ、 ペムブロリズマブ他

以下の資料に基づき当社で推計：1) HK inno.N社資料（2025年11月）；2) Sci. Rep. 10:5814（2020）；日経バイオ年鑑2021（2020）；4) 日経バイオ年鑑2022（2021）；5) Pain Management Drugs Market（2025 - 2033）, GrandView Research；6) Cancer Immunotherapy Market Size, Share, Trends and Forecast by Therapy Type, Application, End User, and Region, 2025-2033, IMARC（換算レート：1米ドル=150円、1韓国ウォン=0.11円）

最も普及した創薬モダリティである**低分子医薬品**は他の既存モダリティに対して**多くの利点**を持つ

医薬品の種類		低分子医薬品	中分子医薬品・バイオ医薬品		
			ペプチド	核酸	抗体
イメージ					
製造コスト		低	中	中～高	高
標準薬価		低	中	高	高
創薬標的	タンパク質	○	○		○
	核酸	○		○	○
投与経路	経口	○			
	その他	○	○	○	○

## 40年以上の製薬事業の歴史を持つKOSDAQ上場企業

会社概要・沿革	
名称	HK inno.N Corporation
所在地	239, Osongsaengmyeong 2-ro, Osong-eup, Heungdeokgu, Cheongju-si, Chungcheongbuk-do, Republic of Korea
代表者	Kwak, Dal-won
設立年月日	2014年4月1日
事業内容	医薬品製造
資本金	14,452,249,500 ウォン (約1,555百万円、1ウォン=0.11 円)
発行済株式数	28,329,891株
主な沿革	<p>1984 CJ CheilJedang (CJ第一製糖) 社製薬事業部として事業開始</p> <p>1992 二日酔い解消剤「コンディション」を発売</p> <p>2014 分社化によりCJ Healthcare社設立</p> <p>2018 買収によりKolmarグループに編入</p> <p>2020 HK inno.N Corporationに社名変更</p>

## コルマーグループの医薬品事業の中核



## 医療用医薬品と健康・美容領域の2軸

### 医療用医薬品



消化器疾患



心血管疾患



輸液



腎・内分泌疾患

### 健康・美容



二日酔い予防/軽減



健康飲料



ヘアケア



スキンケア



資金調達および割当予定先と当社との間の戦略的なパートナーシップの構築を目的として、当社の長年のパートナーである **HK inno.N Corporation (HK inno.N社)** との間で、資本業務提携を実施

資本業務提携の概要	
資本業務提携の目的	1. 資金調達による財務基盤の強化 2. 割当予定先との連携による研究開発ほかの分野での相乗効果
発行決議日	2025年3月21日 (金)
払込日	2025年4月18日 (金)
発行新株式数	普通株式2,592,100株
発行価格	1株当たり397円 (2025年3月19日終値)
調達資金の額 (差引手取概算額)	1,017,847,700円
募集又は割当の方法	第三者割当の方法
業務提携の主な内容	1. テゴプラザンの日本国内での事業化に関する協力 2. 当社が保有する開発化合物の価値向上に関する協力 3. 共同研究の実施 4. その他の研究開発に関する協力

## テゴプラザンの日本展開および研究開発の加速を目的として、HK inno.N社との資本業務提携の内容を拡大

資本業務提携の拡大の概要	
資本業務提携の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資金調達による財務基盤の強化</li> <li>2. 割当予定先との連携のさらなる強化</li> </ol>
発行決議日	2025年12月12日（金）
払込日	2026年1月29日（木）
発行新株式数	普通株式1,555,900株
発行価格	1株当たり907円（発行決議日前日までの直前1カ月間の終値の平均値）
調達資金の額	1,411,201,300円
募集又は割当の方法	第三者割当の方法
業務提携拡大の主な内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当社の割当予定先に対する、日本におけるtegoprazanの独占的な開発・製造・販売権の許諾</li> <li>2. 当社が保有する開発化合物の価値向上に関する協力</li> <li>3. 共同研究の実施</li> <li>4. その他の研究開発に関する協力</li> </ol>

# 資本業務提携後の持ち株比率の変動

資本業務提携#2（2026年1月29日払込）により、**HK inno.N社の保有割合が約16%に増加**  
（株主名簿上の名義はKorea Securities Depository）

大株主及び持株比率			
募集前（2025年6月30日）		募集後	
氏名	持株比率（%）	氏名	持株比率（%）
KOREA SECURITIES DEPOSITORY（KSD）	10.66%	KOREA SECURITIES DEPOSITORY（KSD）	16.01%
柿沼 佑一	9.75%	柿沼 佑一	9.17%
ファイザー株式会社	3.04%	ファイザー株式会社	2.86%
東京短資株式会社	1.10%	東京短資株式会社	1.04%
上田八木短資株式会社	1.07%	上田八木短資株式会社	1.01%
株式会社エス・ビー・シー	1.01%	株式会社エス・ビー・シー	0.95%
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	0.92%	モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	0.87%
株式会社アドバンスト・メディア	0.92%	株式会社アドバンスト・メディア	0.86%
JPモルガン株式会社	0.85%	JPモルガン株式会社	0.80%
香本 育良	0.83%	香本 育良	0.78%

※実際の名義は異なるものとなる可能性があります。

注1)募集前の大株主及び持株比率は、2025年6月30日現在の株主名簿をもとに算出しています。

注2)募集後の持株比率の割合は、2025年 6月30日現在の発行済株式（自己株式を除く。）の総数に、本件により増加する株式数を加算した数を分母として算定したものであり、2025年7月1日以降の取引の状況によって変動が生じている可能性があります。

注3)上記の割合は、小数点第3位を四捨五入して算出しております。

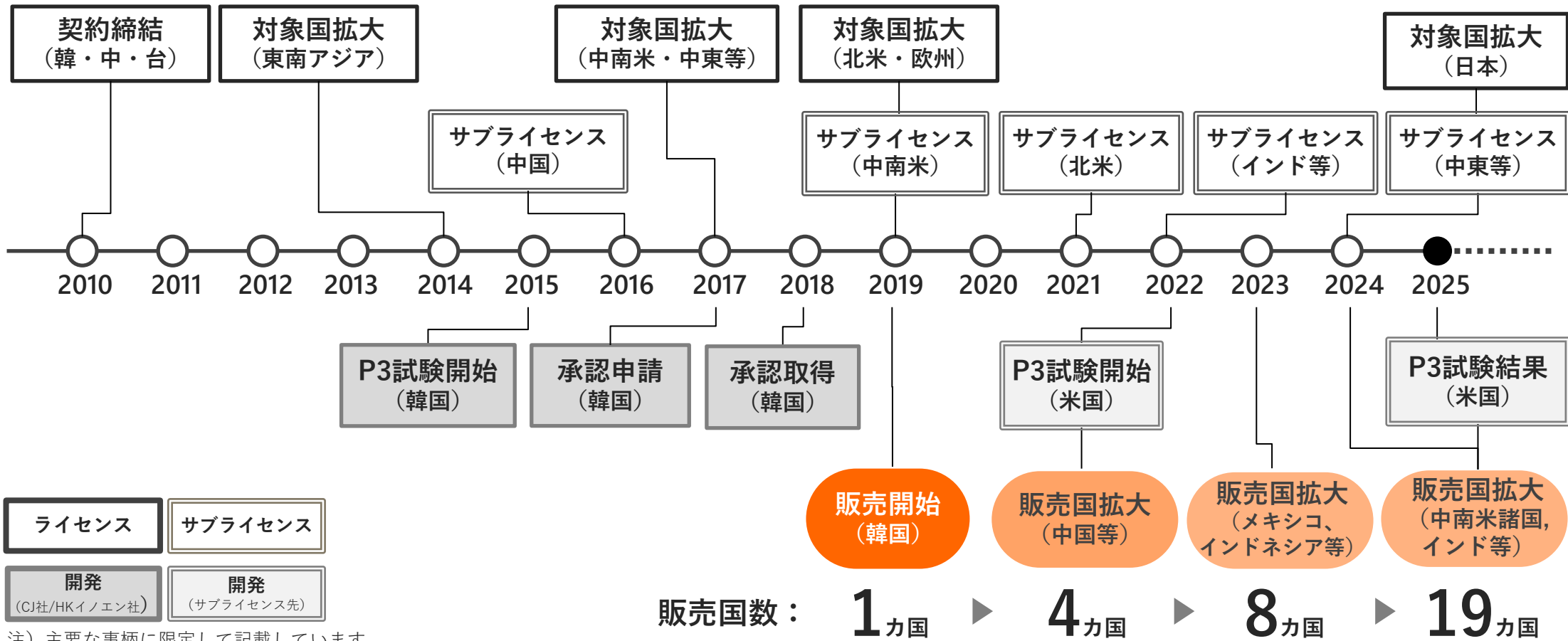
注4)Korea Securities Depositoryは韓国におけるただ一つの中央証券保管機関であり、株式・債権などの有価証券を集中的に保管管理し名義管理や決済を行う公的機関です。

# HK inno.N社とのパートナーシップ

当社とHK inno.N社の提携関係が**テゴプラザン**を**グローバル新薬に成長させた**両社の連携をさらに深め、**第二、第三のテゴプラザン**を生み出すことが次なる目標

世界**57**カ国で事業化進行中

(2026年2月1日現在)



イノベーションの力で、いのちに陽をもたらす



RaQualia  
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社



当社のプレスリリースや決算発表等の情報をタイムリーにお知らせいたします

✉ IRニュースメール登録